

佐々貴義式(佐々木嘉則)先生 略歴・著作リスト



略歴

1956年9月13日 京都市上京区に生まれる
 1986年 ハワイ大学修士 English as a Second Language (applied linguistics)
 1992年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校より
 博士号 Education (educational psychology) 取得
 1991-1994年 カリフォルニア州立 サンディエゴ大学、ローズ大学、
 マサチューセッツ大学の各大学で研究職を歴任
 1994-1999年 ニューサウスウェールズ大学 Senior Lecturer of Japanese
 2001年1月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 助教授
 2004年 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 准教授
 2008年 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 准教授
 2010年1月2日 逝去 享年53才

専門分野：認知言語心理学、第二言語習得論、言語教育

著作リスト

Full-Length Articles in Externally-Reviewed Journals.

Sasaki, Y. & Hayakawa, H. (2003). Does a quiz facilitate or spoil language learning?: Instructional effects of lesson review quizzes. *Applied Language Learning* 13, 1: 33-56.
 Sasaki, Y. (1998). Processing and learning of Japanese double-object active and causative sentences: An error-feedback paradigm. *Journal of Psycholinguistic Research* 27, 4: 453-479.
 Sasaki, Y. (1997). Individual variation in a Japanese sentence comprehension task: Form, functions, and strategies. *Applied Linguistics* 18, 4: 508-538.
 Sasaki, Y. (1997). Material and presentation condition effects on sentence interpretation task performance: A methodological examination of the competition technique. *Second Language Research* 13, 1: 66-91.
 Sasaki, Y. (1994). Paths of processing strategy transfers in learning Japanese and English as foreign languages: A competition model approach. *Studies in Second Language Acquisition* 16, 1: 43-72.
 Sasaki, Y. (1991). English and Japanese interlanguage comprehension strategies: An analysis based on the competition model. *Applied Psycholinguistics* 12, 1: 47-73.

Article in Intramural Periodical(s).

Sasaki, Y. (2009). Validity of the Japanese language test of the Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU): Correlations with intramural entrance examination scores. *Ochanomizu University Studies in Arts and Culture* 5: 175-183. (佐々木嘉則 (2009). 「日本留学試験日本語問題の妥当性の検討：学内日本語試験との並行検査妥当性の観点から」『お茶の水女子大学人文科学研究』第5巻, 175-183.)

Commentaries in Externally-Reviewed Journal(s).

- Sasaki, Y. (1992). (Invited response) Dual storage formats of linguistic knowledge? *TESOL Quarterly* 26, 4: 779-783.
- Sasaki, Y. (1990). A logical difficulty of the parameter setting model. *TESOL Quarterly* 24, 4: 767-770.

Short notes.

- 佐々木嘉則 (2008). 【コラム】「研究報告書に何が必要なのか～「研究論文」と「研究ノート」の差違を例に～」『言語文化と日本語教育』36, 84-88.
- 佐々木嘉則 (2005). 「手がかり」の役割に気づかせる教授方法の効果検証『言語文化と日本語教育』29, 28-30.

Book reviews.

- 佐々木嘉則 (2004). 「新刊紹介：白井恭弘著『外国語学習に成功する人、しない人：第二言語習得論への招待』」『第二言語としての日本語の習得研究』7, 263-264.
- 佐々木嘉則 (2003). 「書評：迫田久美子著『日本語教育に生かす第二言語習得研究』」『第二言語としての日本語の習得研究』6, 90-101.

Invited Journal Articles.

- 佐々木嘉則 (2008). 「今さら訊けない新M1のための、第二言語習得再入門」『言語文化と日本語教育 2008年11月増刊特集号』191-243.
- 佐々木嘉則 (2006). 「研究テーマ選びにおける困難点」『言語文化と日本語教育 2006年11月増刊特集号』104-108.
- 佐々木嘉則 (2006). 「分野別・日本語習得レビュー論文総覧(～2006)」『言語文化と日本語教育 2006年11月増刊特集号』110-121.
- 佐々木嘉則 (2004). 「定量的研究の計画・成果を、リサーチクエスションを軸として分析する一技法：森美子・黒沢学両氏の実験研究を事例として」『言語文化と日本語教育 2004年11月増刊特集号』69-87.
- 大関浩美・遠山千佳・森塚千絵・谷内美智子・佐々木嘉則 (2003). 「白井恭弘講演録解説」『言語文化と日本語教育 2003年11月増刊特集号』17-30.
- 佐々木嘉則 (2002). 「日本語習得研究の日米お家事情」『言語文化と日本語教育 2002年5月増刊特集号』9-18.

Product Reviews in Reviewed Journals

- Sasaki, Y. (1999). A Comparative Review of Multimedia Tutorial/Test Authorware: SuperMacLang, Question Mark, Libra and Digital Chisel. *CALL-EJ Online*, Vol. 1, No. 2, September.
- Sasaki, Y. (1997). Software review: "Word Bingo" and "Word Bingo Player". *On-CALL* 11, 3: 40-45.

Pedagogical proposals.

- 佐々木嘉則 (2000). 「文法概念整理のための絵図利用について：敬意表現と「～とき」節を例に」『日本学刊』第4号 7-13. 香港日本語教育研究会刊行 (Sasaki, Y. (2000). Effective applications of figures and tables to present grammatical notions: Honorifics and "toki" phrase. *Nihon Gakkan* 4, 7-13. Hong Kong Nihongo Kyooiku Kenkyuukai.)
- 佐々木嘉則 (1999). 「日本語教師がカリキュラムに対応したコンピューター・コースウェアを手づくり開発するにあたっての問題点とその解決の工夫—オーサリングツールを使った開発経験から」『日本学刊』第3号 44-56. 香港日本語教育研究会刊行 (Sasaki, Y. (1999). Pitfalls and their solutions Japanese teachers are likely to encounter when they handcraft curriculum-based computer courseware. *Nihon-Gakkan* 3, 44-56. Hong Kong Nihongo Kyooiku Kenkyuukai.)
- 佐々木嘉則 (1998). 「コミュニケーション主体のカリキュラムに沿った『紙と鉛筆』による練習課題の作成技法」『日本学刊』第2号 26-36. 香港日本語教育研究会刊行 (Sasaki, Y. (1998). "Paper-and-pencil" exercises to enhance communication-centered curricula. *Nihon-Gakkan* 2: 26-36.)

Article(s) in Non-Refereed External Periodical(s)

- 土井利幸・佐々木嘉則 (1987). 「外国語習得の自然な順序に基づいた外国語指導を指して—P-Jモデルの紹介—(1)」『英語教育』6月号 (36巻3号) 43-45.
- 土井利幸・佐々木嘉則 (1987). 「外国語習得の自然な順序に基づいた外国語指導を指して—P-Jモデルの紹介—(2)」『英語教育』7月号 (36巻4号) 32-34.
- 土井利幸・佐々木嘉則 (1987). 「外国語習得の自然な順序に基づいた外国語指導を指して—P-Jモデルの紹介—(3)」『英語教育』8月号 (36巻5号) 28-31.

Editorship.

- お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会(編集責任者 佐々木嘉則) (2008). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2008年版』凡人社
- お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会(編集責任者 佐々木嘉則) (2007). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2007年版』凡人社
- お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会(編集責任者 佐々木嘉則) (2006). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2006年版』凡人社
- お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会(編集責任者 佐々木嘉則) (2005). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2005年版』凡人社
- お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会(編集責任者 佐々木嘉則) (2004). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2004年版』凡人社
- お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会(編集責任者 佐々木嘉則) (2003). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2003年版』凡人社
- お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会(編集責任者 佐々木嘉則) (2002). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2002年版』凡人社

Preface.

- 佐々木嘉則 (2008). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2008年版』発行にあたって」お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会 (編集責任者 佐々木嘉則) 『第二言語習得・教育の研究最前線 2008年版』凡人社
- 佐々木嘉則 (2007). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2007年版』発行にあたって」お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会 (編集責任者 佐々木嘉則) 『第二言語習得・教育の研究最前線 2007年版』凡人社
- 佐々木嘉則 (2006). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2006年版』発行にあたって」お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会 (編集責任者 佐々木嘉則) 『第二言語習得・教育の研究最前線 2006年版』凡人社
- 佐々木嘉則 (2005). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2005年版』発行にあたって」お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会 (編集責任者 佐々木嘉則) 『第二言語習得・教育の研究最前線 2005年版』凡人社
- 佐々木嘉則 (2004). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2004年版』発行にあたって」お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会 (編集責任者 佐々木嘉則) 『第二言語習得・教育の研究最前線 2004年版』凡人社
- 佐々木嘉則 (2003). 『第二言語習得・教育の研究最前線 2003年版』発行にあたって」お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会 (編集責任者 佐々木嘉則) 『第二言語習得・教育の研究最前線 2003年版』凡人社
- 佐々木嘉則・長友和彦 (2002). 『第二言語習得・教育の研究最前線』発行にあたって」お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会 (編集責任者 佐々木嘉則) 『第二言語習得・教育の研究最前線 2002年版』凡人社

Book chapter.

- Sasaki, Y. & MacWhinney, B. (2006). The competition model. In P. Li, M. Nakayama, R. Mazuka & Y. Shirai (Eds.) *Handbook of East Asian Psycholinguistics Vol.2: Japanese*. Cambridge University Press. 307-314.
- 佐々木嘉則 (2003). 「競合モデルに基づく第二言語習得研究の論点—日本語習得の視点から—(同書収録の英語論文の邦訳)」 畑佐由紀子(編) 『第二言語習得研究への招待』くろしお出版 31-46.
- Sasaki, Y. (2003). Contentions of second language acquisition research based on the competition model: A

perspective from JSL. Hatasa, Yukiko (Ed.) *An introduction to second language acquisition research in Japanese*. Kuroshio. 155-169.

Technical Report(s)/Working Paper(s)

- 佐々木嘉則 (研究代表者・編著) (2005). 平成 14～16 年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)「第二言語としての日本語習得研究のレビュー論文集編纂と刊行・オンライン配信」研究成果報告書
- 宇根谷孝子・梅田千砂子・佐々木嘉則・福多文子 (2005). 平成 14～16 年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)「インターネットによる遠隔地日本語予備教育システムの開発と効果の検証」研究成果報告書
- Sasaki, Y. (2001). The predictive validity of SPOT and self-assessment questionnaire. *Melbourne Papers in Language Testing* 9, 2: 30-55. University of Melbourne.
- Chaudron, C., Lubin, J., Sasaki, Y. & Grigg, T. (1986). An investigation of procedures for evaluating lecture listening comprehension. *Technical Report #3*. Center for Second Language Classroom Research. University of Hawai'i at Manoa.
- Sasaki, Y. (1992). Paths of processing strategy transfers in learning Japanese and English as foreign languages: A competition model approach. PhD Thesis. University of Illinois.

口頭発表

- 高橋薫・佐々木嘉則 (2009). 「循環的な作文過程モデルの内在化のためのマルチメディアソフト開発－ライティングにおけるメタ認知の活性化を目指して－」 大学教育学会 6 月 7 日 首都大学東京『大学教育学会第 31 回発表要旨集』 148-149.
- 佐々木嘉則 (2008). 「博士論文を書くために理論が必要なわけ」 日本第二言語習得学会秋の研修会 10 月 26 日 大東文化大学 (東京)
- 佐々木嘉則・高橋薫 (2008). 「小論文執筆および口頭プレゼンテーション能力の熟達化を促すカリキュラムの開発」 大学教育学会 6 月 8 日 目白大学『大学教育学会第 30 回発表要旨集』 140-141.
- 佐々木嘉則 (2007). 「なぜ第二言語習得研究に理論が必要なのか－習得順序研究を中心に－」 建国日本文化言語学会第 4 回国際学術シンポジウム 11 月 10 日 建国大学校 (ソウル 大韓民国)
- 大関浩美・菅谷奈津恵・佐々木嘉則 (2006). 「文法教育のサイエンス」 凡人社店頭イベント 1 月 28 日 凡人社麹町店
- 宇根谷孝子・梅田千砂子・佐々木嘉則・福多文子 (2005) 「ビデオオンデマンド型日本語予備教育教材の開発と遠隔での使用」 日本教育工学会第 21 回全国大会 9 月 23 日 徳島大学『日本教育工学会第 21 回全国大会 講演論文集』 229-230.
- 佐々木嘉則 (2005). 「リサーチクエスチョンを軸にした研究計画法を理解させるための一技法－リサーチクエスチョン整理表の紹介－」 大学教育学会 6 月 12 日 京都大学『大学教育学会第 27 回発表要旨集』 125-126.
- 佐々木嘉則 (2004). 「学習目的に合わせてタスクをどう活用するか－認知言語心理学の視点から－」 「言語と人間」 研究会第 30 回記念春期セミナー 3 月 29 日 相模原国民生活センター『「言語と人間」 研究会会報』 第 39 号 p.2.
- 宇根谷孝子・梅田千砂子・佐々木嘉則・福多文子 (2004). 「ビデオオンデマンド型日本語予備教育教材作成事例」 第 2 回日本 WebCT ユーザカンファレンス、3 月 16 日 長良川国際会議場『第 2 回日本 WebCT ユーザカンファレンス 予稿集』 109-113.
- 佐々木嘉則 (2004). 「第二言語習得論の原理に基づいた文法学習用タスクの評価・開発」 マルチリンガリズム研究会創設記念集会 2 月 15 日 宮崎大学
- Sasaki, Y. (2003). Contentions of applied psycholinguistics from the functionalist perspective: Competition model approach. November 7th, Department of Japanese Studies, Hong Kong Chinese University.
- 佐々木嘉則 (2003). 「言語心理学を踏まえた効果的な教室タスク開発」 11 月 6 日 香港中文大學日本研究学科
- 佐々木嘉則 (2000). 「日本語自己評価質問紙の信頼性と妥当性：「自分のことは自分でよくわかっている」か？」 第二言語習得研究会第 11 回全国大会 12 月 17 日 お茶の水女子大学『第二言語習得研究会第 11 回全国大会 予稿集』 90-100.
- Sasaki, Y. (1998). Effects of rule explanations on foreign language learning – An experimental study with Japanese language learners. International Language in Education Conference (ILEC). December.
- Sasaki, Y. (1996). Form-function mapping in a complex situation. 2nd Pacific Second Language Research Forum

(PacSLRF). Victoria University, Wellington, New Zealand, 1 February.

- Sasaki, Y. (1996). Do native speakers always outperform L2 learners? Asian Business and Language Studies Seminar. University of New South Wales, Sydney. 29 March.
- Sasaki, Y. (1995). Logistic constraint, bottleneck, and perspective of crosslinguistic Internet communication projects at UNSW. Education '95 Conference. University of New South Wales. Sydney, Australia, 8 November. In L. Hewson & S. Toohey (Eds.) *The Changing University: Proceedings of the Biennial Education Conference UNSW Education '95*. pp. 444-451. Professional Development Center. University of New South Wales.
- Sasaki, Y. & Schaefer, S. (1995). Is it really necessary to explain grammar in class?: Facilitating autonomous grammar learning through CALL courseware. Asian Languages Pedagogy Colloquium. University of New South Wales, Sydney.
- Sasaki, Y. (1995). Processing and learning of Japanese double-object and causative sentences. Presented at the Applied Linguistics Association of Australia 10th Annual Conference. Australian National University, Canberra, 29 September.
- Sasaki, Y. (1995). Effects of contextual richness on second language vocabulary learning. Applied Linguistics Association of Australia 10th Annual Conference. Australian National University, Canberra, 27 September.
- Sasaki, Y. (1994). Processing and learning of Japanese causative sentences: An error-feedback paradigm. Workshop on Cognitive Processing of Asian Languages. University of New South Wales. Sydney, Australia.
- Sasaki, Y. (1992). 「文法機能の視覚的提示技法」 Visual presentation techniques of linguistic functions (in Japanese). Teachers of Japanese in Southern California Spring Workshop. Cypress College. Los Angeles, CA. Proceedings of Teachers of Japanese in Southern California Spring Workshop.
- Sasaki, Y. (1991). Selection of settings in foreign language teaching materials: implications from experimental psychology. (in Japanese) Seminar in Japanese pedagogy. University of Iowa. Iowa City, IA.
- Sasaki, Y., Moriyama-Chiba, H. & Pearson, D. H. (1991). Effects of cultural familiarity on reading comprehension. AERA Annual Meeting. Chicago, IL. ERIC Document Reproduction Service No. ED 331 006
- Sasaki, Y., Moriyama-Chiba, H. & Pearson, D. H. (1989). Effects of Cultural background knowledge on reading comprehension. Presented at the Second Language Research Forum. UCLA. Los Angeles, CA.
- Sasaki, Y. (1986). Sentence comprehension strategies of native English learners of Japanese as a foreign language. (in Japanese). Presented at the Conference of Japan Communication Association. Miyazaki, Japan.
- Sasaki, Y. & Proctor, S. (1986). How, how much and why non-native speakers have difficulty in negotiation. Presented at the HCTE/TESOL Round Table. Honolulu, HI.

科学研究費補助金研究

2002～2004 年度「第二言語としての日本語習得研究のレビュー論文集編集と刊行・オンライン配信」基盤研究(C)(2) 課題番号 14580326

2005～2008 年度「第二言語としての日本語習得研究・教育に関する研究のレビュー」基盤研究(C)(2) 課題番号 17520343

佐々木嘉則先生のウェブサイト

- | | |
|-------------------------------------|---|
| (1) Yoshinori Sasaki Home Page | http://sa_yoshi.at.infoseek.co.jp/ |
| (2) 2009 年度佐々木嘉則担当科目 | http://sa_yoshi.at.infoseek.co.jp/ocha/ |
| (3) Sasac さんのページ | http://mywiki.jp/sasac/ |
| (4) sasaki yoshinori さんの公開 Book まーく | http://pub.bookmark.ne.jp/sasakiy/ |

佐々貴義式(佐々木嘉則)先生のお茶の水女子大学言語文化学会への貢献



先生は、一人前の研究者・教育者を育成するために、各成長のステップに合わせて、投稿ジャンルを新設してくださいました！

- ①修士後の就職をイメージするために ⇒ 「教育事情報告」
- ②修論のテーマ探しの参考になるように ⇒ 「リサーチコンセプト」
- ③修士課程のゼミと連動⇒ 「文献紹介」
博論に先立つ⇒ 「書評」
- ④論文まで至っていないが報告することに価値がある⇒ 「事象報告」
- ⑤情報提供 ⇒ 「コラム」

増刊特集号『第二言語習得・教育の研究最前線』(レビュー論文集)の出版は先生が一番大きな仕事だと思います！



えっ！こんな小さい研究会でも、凡人社の出店販売をお願いしますか？

言文は小さくない

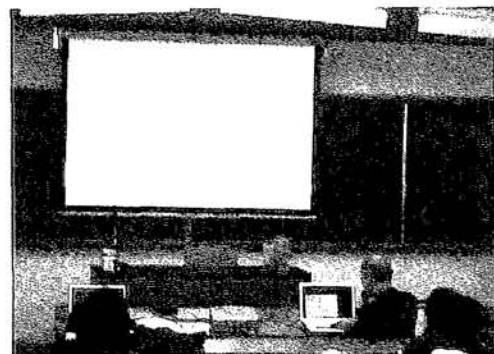
I wish I had this much hair!
by 先生ご自身



先生は、投稿の審査をめぐる議論から、研究論文なのか、研究ノートなのか、査読者の判断ではなく、その区別を明白にして、投稿者に判断させた方がいいと主張なさいました。

参考論文：佐々貴義式(2008)「(コラム) 研究報告文書に何が重要なのか—「研究論文」と「研究ノート」の差異を例に一」『言語文化と日本語教育』84-88.

(この似顔絵は先生の姪っ子さんが小学生の頃、海外の先生に送ったもの。お茶大着任以前から先生のHPに掲載されていた)



研究会のときはパワーポイントを使った開会の挨拶で盛り上げてくださいました



休憩時間は院生や修了生とおしゃべり



いつも斬新なアイデアで、結局事務局の仕事の量が増えてしまう……しかし、今は逆にそんな“迷惑”をかけてくださる先生がいなくなり、寂しいです。研究会の発展に尽力されてきた佐々貴義式先生のご冥福をお祈りいたします。